

令和6年度 第1回 舟橋村立舟橋小中学校 学校運営協議会 会議録（概要）

- 1 日 時 令和6年5月28日(火) 15:30~17:00
- 2 場 所 舟橋村役場 3階ホール
- 3 出席者 良峯 喜久男（舟橋中学校同窓会長） 前原 英石（スポーツ協会会長）
深川 敦夫（自治会連合会長） 泉原 祐紀（舟橋小学校育成会長）
井上 里恵（舟橋中学校育成会長） 松越 正純（舟橋小学校長）
内生蔵 保人（舟橋中学校長） 吉田 隆（立山舟橋商工会舟橋支部長）
京角 由美（主任児童委員） 高野 良子（舟橋図書館名誉館長）
松下 雅人（舟橋会館長） 野村 智浩（統括コーディネーター）
沙魚川 恵子（活動推進員） 深川 泉美（社会教育委員）
綿引 正則（社会福祉協議会長）
事務局 土田 聡（教育長） 海見 英理（舟橋小学校教頭）
前原 靖（社会教育係主幹） 松井 功一（舟橋中学校教頭）
金山 智彦（社会教育係長） 平澤 千織（学校教育係主任）

4 内 容

（1）開会挨拶 <良峯会長>

- ・令和4年から開催された協議会にて、会長2期目となります。今年度から新しく参加された委員の方もおります。忌憚のないご意見をお聞かせいただければと思います。
- ・小中学校は新1年生を迎えて、児童生徒もようやく生活に慣れてきたところだと思えます。小学校中学校から今年度の今年度の運営方針の説明をしていただき、それを受けまして、委員の皆さん連携・協働を念頭に建設的な協議をしていただければと思います。

（2）協議事項

①小中一貫教育について <内生蔵校長>

- ・小中連携した9年間の学びを【ふ・な・は・し】4文字にかけまして、地域連携から共同学習までここで四つの窓で構成しております。
- ・「ふ」は地域特化した学びについては記載されております。

残りの三つについては、学校の教育目標と同様に昔から知・徳・体で構成されている内容となっております。

村の広報誌にもありましたように、オレンジパークを中心とした園むすびの活動やこども公園部長の活動からの公園のあり方の議会提案など、京坪川、細川、環境整備等々含めましたふるさと教育を今年度も継続して実践していきたいというふうにも小学校、中学校ともに考えております。

また、これらの活動においては、地域と学校のつなぎ役である3名の推進コーディネーターの方のお力添えがあってこそ、達成できるものであると思っております。

地域という柱ではありますが、家庭、行政、学校、地域、そして舟橋テトラと協働しながら活動を進め

てまいります。

続く三つの窓は、体・徳・知の順番で学校の教育目標とも繋がっております。

・徳においては、これまでも小中で続けてきました絵本の読み聞かせの実践を追記しています。先日、4月23日にこれまでの実績を踏まえて、中学校は優秀実践校として文部科学大臣表彰を受けてまいりました。また、小学校も既に受賞されて、図書館の方も既に受賞済み、そして読み聞かせの団体も受賞済みということで、舟橋村はめでたくコンプリートしたというような形で表彰を全ていただいております。

・「体」健全育成については、今年度よりさらに充実させていきたいと考えている。追記してあります。特に基本的な生活習慣、メディアコントロール、それから睡眠等々を含めて、家庭の理解が大変必要です。そこで6月20日小中の授業参観日を合わせまして、午後から地域学校保健委員会を実施する予定です。

・最後に学習「知」の部分です。

普通の「共同」ではなく、目標や目的を共有しているというのが、いわゆる「協働」の学びの実践という意味で昨今使われているところです。

この学び舎を大切に学習を小学校中学校と取り組んでいるところです。どうしても、いわゆるチョーク&トップとって、チョークで教員がずっと黒板に書いているという授業ではなく、グループで話し合い等を進めながら、適切な答えを見つけ出す、そういった協働的な学びに向かっております。

・普通のテストだけではなかなか図ることができない、いわゆる思考判断表現ところに焦点を当てながら学びを進めています。

②各学校の運営方針について(小学校) <松越校長>

・9年間の学びを基にグラフを作成しております。また小学校は中学校だけではなく、幼稚園との円滑な接続を大切にしておりこれを進めております。

目指す子供像を支えるものとして、今年度は「笑顔かがやく魅力ある学校」を目指しますまた教職員目指す教職員像としては、「自信と誇りをもって子供と向き合う教職員」像として掲げています。

・学校教育目標は、「優しい子」「楽しい子」「賢い子」というふうに進んでいるわけですが、本年度は目指す学校像、目指す教職員像というところで子供たちを支えていくことを考えています。

・重点目標は「主体性と挑戦心の育成」と打ち出しました。主体性は何も決まっていない状態から、何をすべきかを自ら考えて行動すること。挑戦心は課題に対して考え取り組もうとする姿勢を指すものです。本校の子供達ですから、さらに人前にでて自分を表現する力を高めることで、自信を持って物事に取り組んでいってくれるのではないかと考えています。

失敗は成功のもと、失敗を恐れず自分から進んでいるものに挑戦して行ってほしいと思っています。

ご家庭や地域でも、子供たちの頑張りを温かく見守っていただければ幸いです。

教職員においてですが、まずは子供理解、児童ファーストという言葉を念頭に掲げました。温かくて心地の良い学校、学年、学級作りに努めるものとしています。

・次に子供は自己調整しながら学習を進めることができるような教育活動を推進することです。そして、異学年や地域の方々も含めた他者との関わりを仕組んだり、自分を見つめ振り返る場や方法を探し

たりすることで、確かな学力を身につけていきたいと考えています。

・思いやりの心の育成、望ましい生活習慣の育成、必ず学び伝えの充実この3点についてですが、思いやりの心の育成に関しましては、今年度も引き続き、「挨拶」を挙げています。昨年度論議していただきましたが、今年度はおかげさまで自分から挨拶する子供が増えてきています。今後はさらに児童会の取り組み等が発展してくことを願っているところです。

・望ましい生活習慣の育成では、生活実態調査を基に今年度は、食事、運動、睡眠、メディア、この四つの中から自分のウィークポイントの一つを選んでマイベスト生活リズムを作ろうというテーマで生活を見つめ直していくこととしています。

本校は、今年度、富山県小学校教育課程研究会の保健の推進校として2年目を迎えています。

また、学校保健会の学校保健推進校にもなり、さらに広く県内に発信していく立ち位置となっています。

研究主題は、心と体の健康作りを主体的、対話的に実践していく子供の育成です。

昨年度から様々な学年学級において授業を公開していますが、今年も11月7日、県東部研究集会では、昨年度同様140名ほどの参加者を招いての公開授業を行います。

・ふなはし学び合いスタイルですが、今年度も話し上手と聞き上手に力を入れています。どちらかというところ今までは聞くことに重点を置いて、安心して話せる場作りを行ってきましたが、いよいよ挑戦心の方、今年度は話し上手になるような手立てを学年の発達段階に応じて提示し、実践をさせていきたいと思っています。

・先ほど説明があった【ふ・な・は・し】の頭文字をとってお話します。

まず「ふ」ですが、地域人材、地域の人的物的資源を最大限に利活用というものを考えています。今年度はやっぱり新たな資源の発掘をするということと、ぜひこの運営委員の皆様のお力をお借りしたいと考えています。

特に自然体験活動から得られる喜びや協調性など、尊いものです。そのような形で進めていきたいと思っています。

・「な」は道徳教育、人権教育の推進、心の耕しとなる読書活動の更なる推進です。

おかげさまで図書貸出システムは軌道に乗りまして、何よりも、村立図書館からの力強いご支援もあり、子供たちは非常に恵まれた環境にあると思っています。

引き続きよろしくお願いいたします。

・「は」の部分は、保健の推進校であるという自覚をしっかりと持って、実践を重ね、また、保健だけではなく、環境教育にも積極的に取り入れていきます。

・次に「し」ですが、教職員の更なる授業改善などを持っています。ICTの効果的な活用も進めていきます。具体的には、ホームページですが、学校だよりや学校要覧にもQRコードをつけました。より開かれた学校を目指して、実はホームページを毎日のように更新しております。

保護者の方だけではなく、地域の方に見ていただきましてご協力いただければなと願っています。

さらに中学校ですがメールを活用した資料やデータの添付も行っております。

授業におけるICT機器の活用個別ではなくて今度は協働的な学び場でも使えるようなことを工夫しようと考えております。

・今年度の児童数は194名、教職員は33名となります。

職員一同力を合わせ、歩んでまいります。ご指導ご助言の方、どうぞよろしくお願いいたします。

②各学校の運営方針について(中学校) <内生蔵校長>

・今年度は全校生徒数 112 名ということで昨年度よりも 5 名減となっています。

例えばこの中には見えてないですけども、特別支援級も閉級となっております、今現在は 1 年生から 3 年生まで 1 学級ずつの 3 学級の学校となっております。

1 年生は 35 人学級なのでもうすぐもう 1 人いると 36 人ということですけども、右側の令和 6 年度以降の生徒数をご覧くださいと、1 年生が 2 学級つまり 35 人以上になる可能性があるのは令和 10 年のみで、残りはずっと通常級が 3 学級、つまり中学 1 年生 2 年生 3 年生ともに 1 学級ずつ、そして特別支援級がいわゆる 2 学級の展開が考えられるという構成となっております。

昨年度から比較すると、今年度は 2 名 2 学級減ということで、配置標準数的には本当は 3 名減の予定でしたが、さすがにそれでは学校は立ちゆかないだろうということで、1 名の加配をいただき、2 名減で済んでおります。

・教育目標、現場具体化のための全体計画（グランドデザイン）について

【ふ・な・は・し】にかけてありますと同時に知・徳・体の順番に従いまして、本校の学校の教育目標は「学びの精神をもち、仲間を思いやり、たくましく生きる生徒の育成」となります。

・自分は 3 年目になりますけれども、学びの精神というところが、やっぱり先生方にも浸透していません、その理解が不足していたため、ここに書いてあるように学びの精神を主体的な探究心としようと捉えている。

実際、自分としては変えていきたいところであり、自分の時がこの教育目標を変えるということは大変なことですが、ぜひここでもご審議いただきたいなというところがございます。この「学び」の精神の文言が学校の教育目標に取り入れられたのは平成 17 年からでして、実際これは「学ぶ」を意識して入れられたものと思っています。

そうすると、学校の教育目標は「学ぶ」の精神の方がより相応しいのではないかとずっと考えてきたところなんです。あるいは「学びの精神」とくらないと、ちょっとこの文言は文章としてあまりよろしくないのではないかなと思っています。

ベストは、「学ぶ」の精神を持ちで、「学ぶ」と精神とはなんぞやということで、そこに書いてあるように“主体的な探究心ですよ、この立石にも書いてありますよ”っていうことをうたってことが、本校の学校の教育目標として相応しいのではないと思っています。

と同時に、この小学校と合わせるべきことではあるかなと思いますが、校訓というものが本来はまずあればいいのかなというふうに考えているところあとちょっとご審議いただいて、ただ中学校で校訓の制定するのであれば、小学校にはないのかという話になりますので、そのあたりも含めてこの目標や校訓について、またご意見をいただければと思っています。

・学校運営に係る目標は知・徳・体は、いわゆる 3 年次の 3 点目、アクションプランを含めて、その傾向に同様のものを持ってきております。

ただ、数値目標についてはアクションプランを見込めますが、ちょっと小学校や他の学校とちょっとうちの学校の建て付けを変えておまして、このアクションプランの目標はあくまでも教師の行動目標、教師の具体目標を掲げています。

昨年度まで100%実施でしたが、ほぼ100%達成されています。100%と謳うと先生方今日ではできなかったとか、今週は達成できなかったという罪悪感さえ持たれる方もおられるので、もう90%でも先生方には十分やっていただいているので、低く変更しています。

ただ、昨年度末の学校教育学校運営協議会でも、ご提示させていただいたように生徒からのこのアクションプランに関わる実行については、9割方の賛同、肯定的な意見をいただいているので、先生方の取り組みが十分浸透しているというふう考えている。

・研修の取り組みについては、自ら考え、ともに学び合う生徒の育成ということで、昨年度までは小学校と同じ研修主題でしたので、ともに学び合う子供の育成と掲げておりましたが、今年度は小学校と中学校別々の研修主題を掲げておりますので、中学校としては生徒の育成ということでなおかつ具体として課題もあるから、学習課題をどう進めていくかということを中心に組み込んでまいりたいと思っております。

それから連携協働体制についても、先ほど説明させていただきました。

舟橋テトラに協力いただきながら取り組んでいきたいと考えております。

・育成会の組織についても、お力添えをいただきながら、いろんな行事運営に進んでいきたいと考えております。

・学校の歩みについては、令和6年度は3月に全国大会に出場したこと、子供の読書活動推進実践の表彰をいただきましたことをここに掲載させていただいております。

ただ、今年度も大変ありがたいことに、トイレの改修工事が夏休みに計画されておまして、もし、残すのであればということで、トイレの洋式化改修工事、洋式に変えていただくということで昨年度の保護者の方々からご意見いただいたものを早速取り入れ、工事をする予定になっております。

・主な行事予定ですが、この協働的な学びに向かっていく、探究的な学びに向かっていくということで、子供たちは今年度5教科について、レポート学習に取り組むというところを含めて、例年5月に実際行っておりました中間テスト（中間評価）をやめました。そうすることによって、先生方も修学旅行もあり、今まで本当に範囲のない中で無理やり実施してきたテストだったので、今年は、落ち着いて取り組みことができているのではないかとこのように思っております。

また、9月の体育大会についても、これまた中体連の部活動の大会が若干変更になりまして、秋の県の大会が廃止になりました。そのため、10月に地区の新川地区の新人戦が異動します。

そうしたところで、9月に行ってきました新川地区の新人戦がなくなりましたので、

体育大会は、通常より遅い9月14日土曜日を今年度の計画としているところです。

いろんなところを子供たちの学びやすさ、より充実した学びを求めて変更をかけております。

①②に関する質疑応答

（問）中学校校長からの教育目標の「学ぶ」への変更について、ご意見はありませんか。

（答）体育館にかかっている書は「学ぶ」ですね。

だからそれに合わせた形でということをおられるかと思いますが、小学校の方の学校目標もやさしく子たくましい子かしこい子ですが、これも以前はもっと難しい言葉だと思います。2文字の漢字で全て作られていて、小学校に合っていなかった言葉だったので、直して今のものにした。

そのときそのときの状況に合わせて校長先生の方で直されて構わないと思います。

(問) 今後、舟橋小学校の児童数の発表がありました。1学年1クラスが基本のようですが、松田村長の時代、都市計画で急激に人口は増えた時にそれまでは小中一緒の校舎だったが、小中別々になり、さらに1クラスから2クラスになった。

今のこの状態で保育所は、子供が多いみたいで、しばらくは児童数が確保されるみたいだが、この後の何年後の計画について、小中どんなシミュレーションをお持ちか。

(答) 今後、小学校に関しては、今後1, 2年は2クラス予定です。舟橋の場合、転出していかれる方も多く、年度末に動くことが多く、今年度もギリギリで1クラスになった学年もある。しばらくは増えていく。

(問) 今1, 2年という話ですが、5年から10年後のスパンでどうかという話。今、出生、転入してきているお子さんが就学する時、転入者がいないと児童生徒数の確保が難しいのではないかとということが実感です。

(意見) また、先生方をお願いしたい。小学校中学校9年間、たかが人生の一部。されど、舟橋は1行政1校。その先に受験があり、初めて社会生活を営んでいかなければならない。大切なのは、学校としては学校教育だと思いますが、対外的に将来高校受験、社会生活をしていくための力が付くよう、有志の人たちの力も借りて、商工会としてもできることがあれば協力していきたい。

(答) あと児童数についてはなかなかこの後先が見えないところが多々あるのですが、昨日実は高校再編の方のシンポジウムに出ておりました。令和20年には今の生徒数が30パーセント少なくなります。ということで、新川地区の学校だけ今の高校で11学級しかできない。

学校はたくさんありますが、そういう現状にあるということです。舟橋は何とか横ばいで、今のところ行けるのですが、そこの辺りはその後どうなっていくのかを読めていないとあります。おっしゃる通り10年後20年後どうなっていくのかということは、本当に想像がつかなくて今、教育の世界も頻繁に変わっているので、なかなか10年後20年を見通すのは難しいところはあります。

たった2年のコロナでタブレットが全員に配られ、そのためデジタル化が進んでいった。それに先生も子供もついていけないといけない状況ですので、どんな社会にも適応できる子にいかにか育てていくかが大切になる。

また皆さんがもうたくさんそういうご意見をいただいてどうしたらいいかなっていうことを考えたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(答) 75周年記念の計画に今は一生懸命なのですが、今後は10周年記念じゃなくて、25周年記念でいいよと同窓会長に言っていただいて、そういう話しをしているときに消滅都市の話が出まして、データバンクにすぐ行って、2050年のときの10歳から15歳までの2025年から2050年まで比較すると、舟橋村は70%減でした。70%減、つまりもう70人の学校になるということ、100周年記念のときはそうなるのだなと改めて感じたのと、新川地区全体で見ると、富山県勢の7割のうち2020年で7割30%減なのですが、新川地区だけ子供たちで見ると、もう60%しかなかったんですね。どれだけ確かはわかりませんが、70人しかいない学校ってどんな感じかなと思うときに考えてかなければならないと感じました。

実際に体育大会は3団構成で、欠席とかが出るといろんな出ずっぱりの子も出てきて、去年は「倒れそうです」と訴えてくる生徒もいました。

今年度は尚且つ、もう大会等で部活部活というかクラブは当然出場しない生徒も確定してしまっていて、そうなるともう3団構成はもう無理ということで、今、生徒会執行部と暫定的に2団でやってみないかと相談しています。少人数の方が小回りが利くという利点もありつつ、考えていけないといけないと感じております。

承認の確認

- ・ 挙手全員により、協議事項①②は【承認】されました。

(3) 学校予算の概要・施設設備等の整備について

<事務局費>令和6年度歳出予算の概要を説明

(共通)【新規】ボードゲーム教材購入

【継続】令和のとやま型教育推進研究委託事業交付金

(小学校)【新規】グラウンド整備

【更新】職員室電話設備更新工事

【新規】職員室用液晶ディスプレイ

【更新】ICT環境機器整備費用(校務用PC)

(中学校)【新規】トイレ洋式化改修工事設計監理業務

【新規】トイレ洋式化改修工事

(中学校)【新規】職員室用液晶ディスプレイ

【更新】ICT環境機器整備費用

【更新】家庭科室環境整備費用

【新規】英語検定料補助

(社会教育総務費)

【継続】地域学校協働活動推進事業

【継続】英検ネットドリル使用料

(保健体育費)

【継続】部活動指導員報酬

【継続】スポーツエキスパート指導者謝礼

(4) 地域学校協働活動について <舟橋テトラ 土田>

・ 地域学校協働本部とは、こういう名前で活動しておりますが、組織や団体があるわけではなくて、体制という形でその時に関係する団体さんをお願いをして、いろいろな活動についてお手伝いをさせていただいているということでもあります。

・ 地域と学校が目標を共有して活動を行っていくということが地域学校協働活動となり、教育本部で一番はコーディネート機能ということで、学校からの依頼についてコーディネートし、団体さんと呼んできてお手伝いをしてもらい、あるいは、各団体さんから学校への依頼についてコーディネートするというその機能が一番大事な機能になっていると思います。

例えば、14歳の挑戦については、以前はこの先生方が仕事の職場を回って、受け入れをお願いしていた

のですがそれをテトラが施設等にお願いに行ってお話を得ているというようなことを行っています。

・放課後等の学習ということで、毎週月曜と木曜日舟橋会館の方で放課後学習会を行っています。現在の小学校3年生から中学3年生までのお子さんを大学生が中心になって見てくれているというような状況になっています。

・子供の見守り活動ということで、「ながら見守り隊」というのを組織いたしました。なかなか今のところ活動自体が少し低迷しており、帽子は140個配布したが、被っておられる方を見かけないということでまた今日の自治会の方で少しお話をさせていただこうかなと思っております。見守り隊については、ここ最近、老人クラブさんを中心にお願いをして、老人クラブさんが主になってやっていただきましたが、老人クラブ自身の高齢化が進みまして、新たな担い手の方が入ってこないということで、少し見守り活動がなかなかできないよというようなところになってきております。

この後、テトラ中心になって6月の後半に関係団体に集まっていただいて、この後どういうふうな形でやっていこうかという協議も進めていきたいというふうに思っております。

・そして、今年度は「学校てつだい隊」ということで小学校もご迷惑もかけていますが、ジャンパーを作成いたしまして、これを着て学校の中に入っていただければと思っております。

今のところは小学校だけですが、学校内に入っていただいて、休み時間も子供の見守り、掃除のときの見守りや手伝い等に入ってもらっています。それ以外にも、中学校の方もですが、花壇の清掃や水やりのお手伝いもしていただいています。そういうふうな手伝い組織を作りました。現在13名の方が登録しておられますが、この後、お時間のある方がおられましたら登録をしていただいて、学校の中に少し入っていただければというふうに思っています。

ただ、これは毎日やるとかそういうのではなくて、自分の時間の空いているに時こうやってもらおうというふうなことでお願いをしようと思っております。

早くそういう形で、今、地域学校協働本部の方は動いております。皆様のご協力を得ながら様々なところで学校の下支えといいますか、学校が困っていることについて、協力をしていくというようなことを考えています。

・学校運営協議会について、説明が足りないところについて補足いたします。

本来はこういう基本方針を話しするだけではなくて、小学校部会や中学校部会に分かれた時に、何を話しするのかというと、このテーマを決めた形で、今それぞれ問題になっていること例えば育成会で持ち上がっている子供の問題、例えば、スマホの扱いをどうしたらいいか、寝る時間が遅くなって困っているのだけど、どうしようかとかっていうようなテーマを決めた形で皆さんが話をし、こういうことでやってみませんかというのを決めていただくのが学校運営協議会ということになります。

その決めていただいた事に対して、テトラが動けるところはテトラが動きますしそれ以外に村民の方が動けるところは村民の方に声をかけて動いていただくという形で、その後、今年度は熟議ということを取り入れた形で皆さんとともに課題解決ということをしていくというのが、コミュニティスクール、学校運営協議会ということになっています。

ただ、委員さんだけが集まって話しをすることだけが熟議ではなくて、委員さん以外に育成会の保護者の方に入る、あるいは児童生徒に入ってもらって話をすることもありということで、いろんなものが考えられるということでもあります。

こちらに小学校の教頭先生方がおられますので、この小学校、中学校のそれぞれの部会運営については、教頭先生方をお願いをして持っていただくというようなところを、今年度は考えております。

③④に関する質疑応答

(問) 舟橋村においては、そもそも1校ずつで小学から中学へ上がっていく。あえて連携というところで、小学校と中学校の連携、テトラとの連携、小中一貫も含めて違いをわかりやすく、このような特色ですよというものがあれば教えていただきたい。

(答) 現在、6校、義務教育学校として小中一緒になっている公立学校ありまして、南砺市も含めて、義務教育学校化してきています。

いろいろ少子化対策も含めてなんですけど、一つの建物の中に、例えば英語の中学校の先生がいれば、英語の先生が小学校の英語もみることなのです。非常に交流もできて、ある意味教育が充実している。教科も理科や数学、算数も教科担任として、中学校に教えている者が小学校の理科とか数学とかを教えていく。今、文科省は新しく小学校3、4年生も教科の担当で教えてっていいですよってことを打ち上げています。

つまり、より専門性の高い教員が指導することで、より高い学力が身につくのではないかと小学校6年間で前期課程という中学校3年間も後期課程という。9年間でトータルで考えましょうという。

本村は幸いにして、新たな箱、つまり学校を作らなくても、英語が例えばどうなってるかという本校の英語の教諭は、小学校まで行って実際に教えているわけですね。

そこに乗り入れて、理科とか数学とかどうなのって言われるとそれはなかなか難しいところありますが、配置数とかいろんな絡みも含めて、義務教育学校化しなくても十分な連携は取れているのではないかなど。

(答2) 義務教育学校になると、結局校長先生1人です。

小中連携だと学校が別々ですし、小学校中学校でそれぞれ校長がいます。

義務教育学校は制度的には中学校の免許を持ってなくても大丈夫っていうようなところがありますが、義務教育学校になると小中の免許を持った先生じゃないと勤められないという法的なものがあり、経過措置はありますが、そういう縛りが出てくるところがあると思われま。

承認の確認

・挙手全員により、協議事項③④は【承認】されました。

(4) 開会挨拶 <前原副会長>

協議内容に対し、懇切丁寧に説明をいただき、ありがとうございました。

現在、富山県下、再編の問題で運営委員会とも相当紛糾しているところもあります。お陰様で舟橋村は、令和12年でも100人、一村一校を貫いていけるということですが、先程あがりました通り、人口減少は進んでおります。今後どうなるかという動きはちょっと心配なところはありますが、行政としても、きちっとした人数を確保できるような村づくりをしていかなければならないと考えておりますし、皆様のご理解ご協力が村全体で必要だと思っております。

再編について討論しておられる市町村もありますが、村はそういったことはないので、子供達や皆さんと向き合った形で本当の学校運営について協議ができるものと考えております。